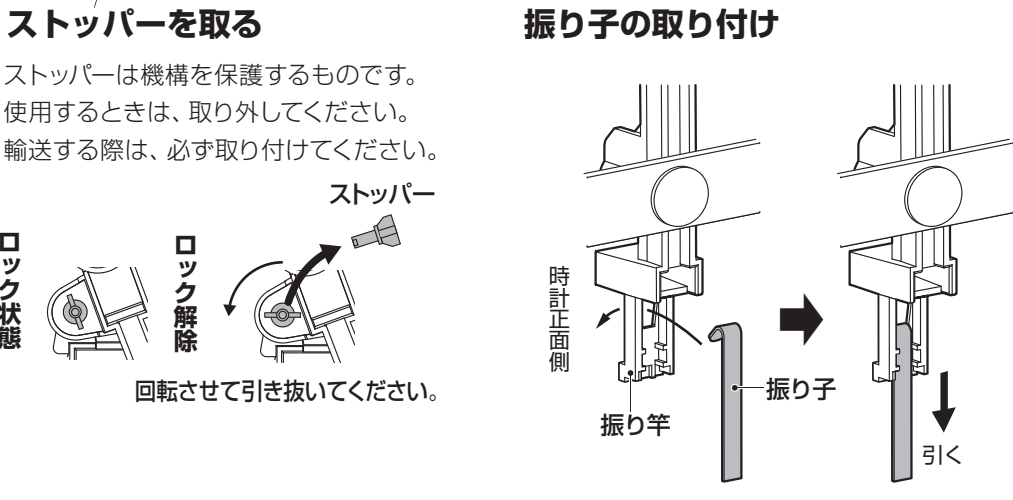
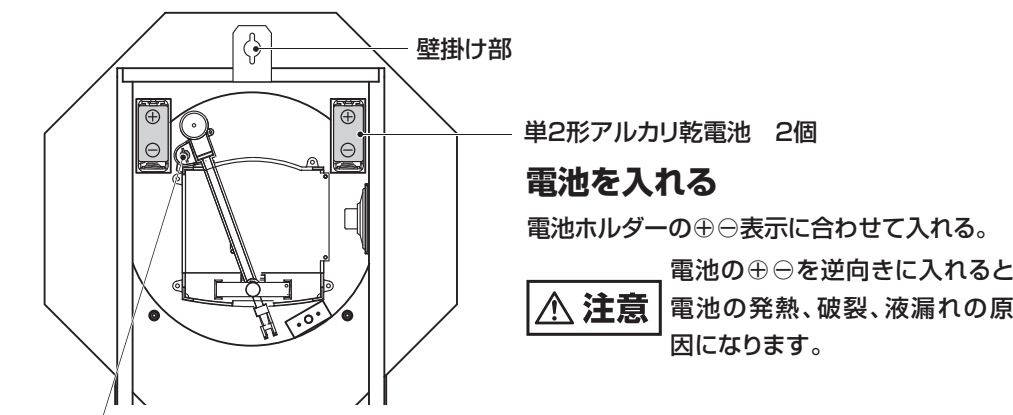
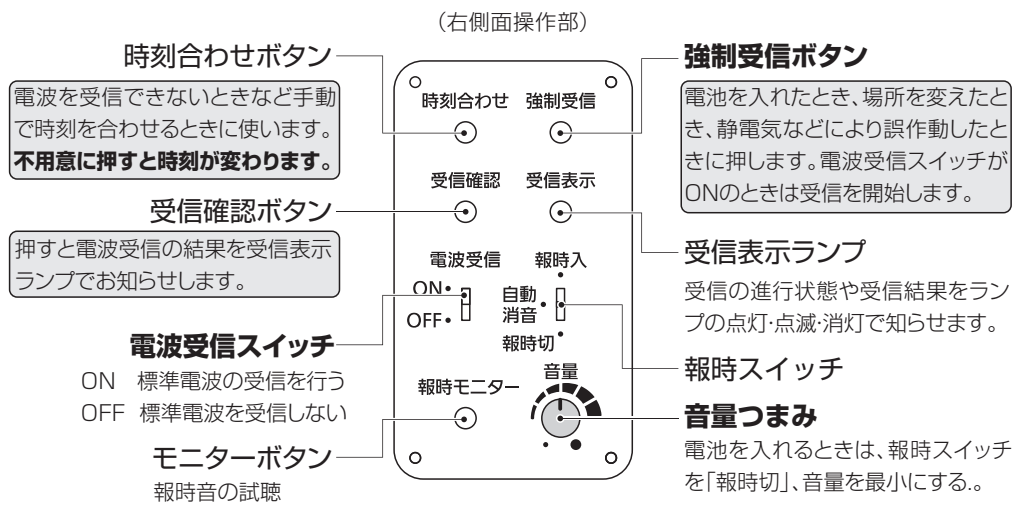
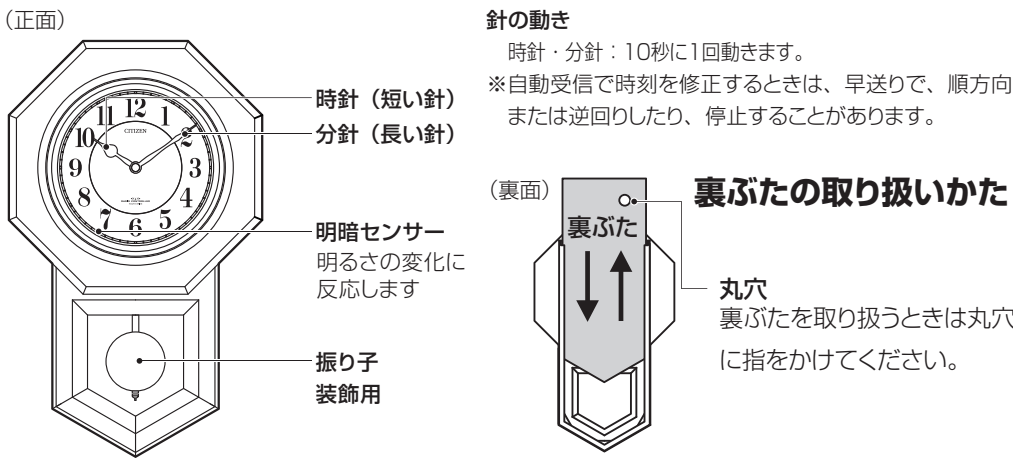


各部の名称と役割

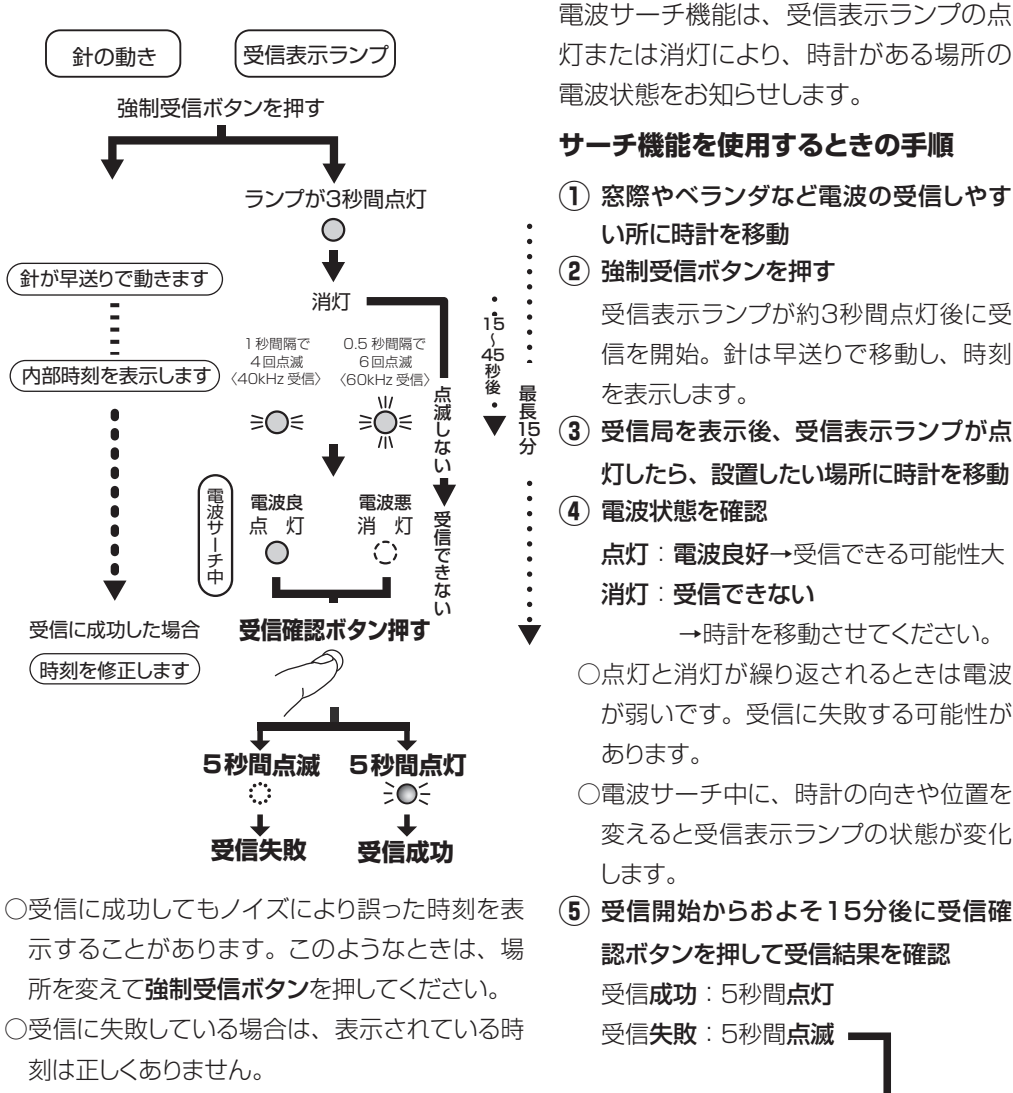
図は操作説明用ですので簡略化しております。実際の商品と異なることがあります。



内蔵電池による時刻のバックアップ

この時計は、工場出荷時に電波を受信させ、内蔵電池により時を刻み続けています。表示用電池を入れて強制受信ボタンを押すと、およそ3分以内に内部時刻を表示します。表示用電池が消耗したときや取り外したときは、内蔵電池に切り替わります。※内蔵電池のみでは、針による時刻表示や報時を行いません。※電波受信スイッチが OFF に設定されているときは、受信を行いません。※表示用電池により時刻表示がされているときには、内蔵電池を使いません。※通常の使いかたでは内蔵電池の交換は不要です。

標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた



標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。
- 時刻を合わせて使用する
ベランダなど屋外で電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。

静電気の影響について

静電気の影響により、時計が正常に機能しなくなることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

ご使用方法 電池を入れて時刻を合わせる

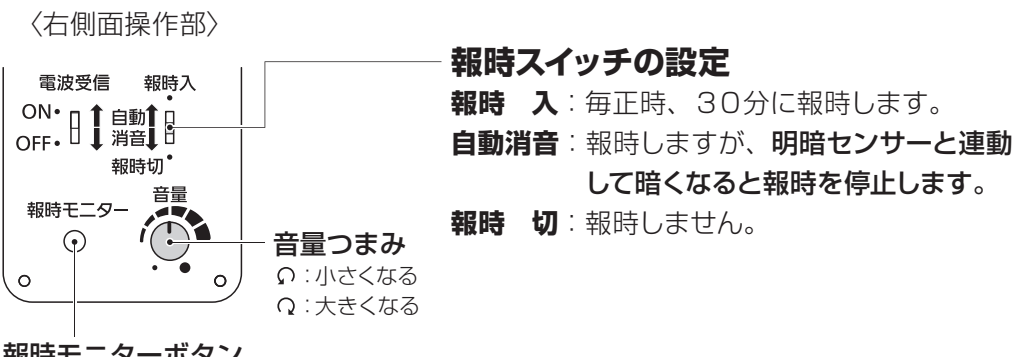
標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせる場合は、**手動での時刻合わせ**を参照してください。

この時計は、時刻を合わせて出荷しております。
単2形アルカリ乾電池を入れてから強制受信ボタンを押してください。
強制受信ボタンを押してからおよそ3分以内に時刻を表示します。
※時刻合わせボタンを押さないでください。押すと時刻が変わってしまいます。
※時刻を表示する前に針が一時停止したり、順方向または逆回りして早送りしたりします。
下記の手順に従ってください。

- ① 電波受信スイッチがONになっていることを確認する
OFFになっているときはONにしてください。
 - ② 音量を最小にする
操作中に報時が大きな音で鳴らないようにします。
 - ③ 表示用の電池を2個入れる
 - ④ 強制受信ボタンを押す
 - ⑤ 振り竿部の緩衝材を取る
 - ⑥ 振り子を取り付ける
 - ⑦ **時計の掛けかた**に従って時計を掛ける
 - ⑧ **お好みに応じて報時機能を設定する**
- 標準電波の受信結果の見かたは、**標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた**を参照してください。

報時機能の設定

報時は、毎正時に時刻に応じた数のチャイムが鳴ります。たとえば、12時のときは、チャイムが12回鳴ります。また、30分にはチャイムが1回鳴ります。



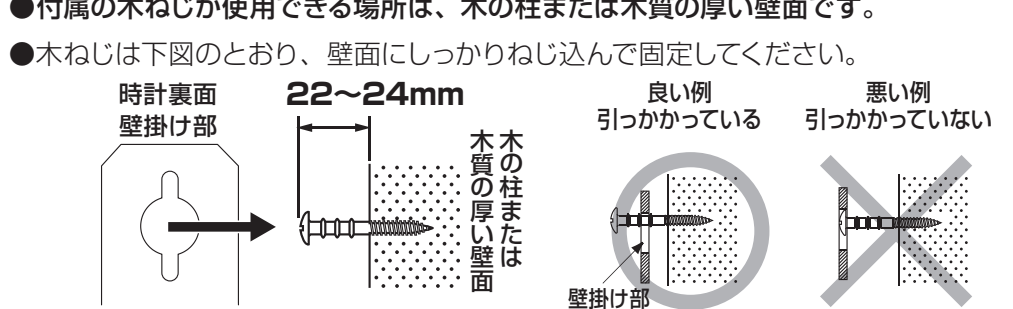
報時モニターボタン
■音量の調節
報時モニターボタンを押して、報時している間に音量つまみを回して調節します。

■報時音の試聴
報時モニターボタンを押すと報時音を奏でます。報時は時計が指している時刻に対応します。たとえば、3時35分のときは3時の報時音が鳴ります。
※手動で時刻を合わせた直後は、チャイムの数が合わないことがあります。

時計の掛けかた

- ⚠️ **注意** 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。
- 掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、掛け具（木ねじ）に壁掛け部がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- 壁掛け部以外に掛けないでください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。
- 掛け部以外の所に掛けないでください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合



その他の壁面の場合

- 石こうボードやコンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。
- 良い例 (Good example)
- 悪い例 (Bad example)
時計が傾いていると、振り子が正常に動かなくなります。

明暗センサーのはたらき.....報時の自動消音

明暗センサーが暗いと判別した場合、報時スイッチが「自動消音」のときは報時を停止します。
昼間や照明器具により照明されているときでも、明るさが不足するとセンサーが動きます。

手動での時刻合わせ.....受信できないときや任意の時刻に合わせるとき

時刻合わせボタンを操作することにより、手動で時刻を合わせることができます。
※時刻合わせボタンを離しているのに、針が早送り動いている場合は、通常の針の動きになってから操作してください。
※電波受信スイッチがONのときは、受信に成功すると時刻を自動的に修正します。
操作
○時刻合わせボタンを押してすぐに離れた場合は1分進みます。
○時刻合わせボタンを押し続けると早送り動きます。
秒は、時刻合わせボタンを離れたときにゼロ秒になります。

電波受信機能のON/OFF切り替え操作

電波受信スイッチをONにすると、定期的に標準電波の受信を試み、受信に成功すると必要に応じて、時刻を修正します。
電波受信スイッチをOFFにすると受信を行いません。クォーツ精度になります。
※電波受信機能がOFFのときに強制受信ボタンを押すと、針が早送り動いたり、止まったりしてから時刻を表示します。